

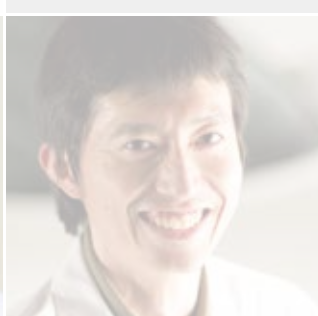


プロジェクトがスタートすると、研究所の中から同じように考える、若い開発者たちがたくさん集ってくれました。やはりHondaには、スポーツカーが大好きな人間がたくさんいるのだと実感して、うれしくなりました。

これだけ人数を集めれば、当然のことながら、いろいろな意見が飛び出します。スポーツカーという言葉の難しさは、定義がさまざまであること。ハイパワーな車もスポーツカーだし、軽いクルマもスポーツカー。カッコがよければスポーツカーという意見だってあります。多様な考えを持った仲間たちで、スポーツカーはなぜ楽しいのか、何を私たちにもたらししてくれるのか、それを徹底的に解き明かそうとしました。「スポーツカーのカリスマ」みたいな人はチームにいなくても、メンバーでスポーツカーというものを真剣に考え抜きました。そして、何度も、何度も走り込み、自分たちがめざすものになっているのかどうかを見極めました。そんな過程を経て生まれたこのクルマは、「S」という、Hondaにとって大切な名前に恥じないものになったと自信を持っています。



私たちのような「スポーツカー好き」がいる限り、これからもHondaのスポーツカーづくりは続いていくと、強く信じています。Hondaのスポーツカーが、もっと面白くなっていく。それをS660から感じていただければうれしいです。



S660 開発責任者

棕本 陵

(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター LPL

2007年本田技術研究所にモデラーとして入社。2010年、本田技術研究所50周年を記念して行われた新商品提案コンペでスポーツカーを提案し、グランプリを受賞。速すぎ・ハイスペックすぎのクルマは「オレには乗れない」。それよりも、五感を刺激し、いつもの通勤路を走るだけで笑顔にさせてくれる、痛快で楽しいクルマを——。20代でありながら、「オヤジ寄りの価値観」を持ち、スポーツカーとしての「普遍性」と「先進性」を兼ね備えたクルマづくりに邁進。愛車は就職以来乗り続けるS2000と、エレメント。地元の友人から「いつも変わったクルマに乗っている」と言われるのが楽しくなりつつある。